



柳川には、九州で三本の指に入る魚市場があり、毎朝、迫力ある競りが行われます。日本中の水揚げが集まり、その魚種は日本一。柳川の食事処の美味しさの所以です。「むっごろう」「めかじや」「わらすば」「くっご」など、有明海独特の魚介をメニューから見つけてみてください。

上右／郷土料理「くっご」の恵付け
下／柳川魚市場の競りの風景

A wide-angle photograph of a bustling fish market. The floor is covered with numerous white and blue styrofoam boxes, some stacked high. People are seen moving through the aisles, some carrying boxes. In the background, there are more boxes and what appears to be a weighing station or a display area. The lighting is bright, and the overall atmosphere is one of a busy, active marketplace.

柳川の魚介類や、海苔、地元の食べ物がそろう「中島の朝市」。安くて、新鮮で、かたちや味わいもめずらしい有明海の幸も並びます。午前中には、店じまいとなるところが多いので、お早めに。

左上：中島の朝市の風景 下：有明海の夕日と「もて網」(地元特有の漁法の仕掛け)

An aerial photograph showing a wide river delta flowing into a body of water. The river is flanked by extensive, rectangular rice fields in various shades of yellow and brown. A city with dense urban development is visible in the background, situated at the head of the river. The sky is hazy and overcast.



柳川自古以來就住在中女娃誕生後的第一個女兒節懸掛「女兒節吊飾」，以祈求孩童能平安成長的習俗。每串女兒節吊飾有 51 個小擺飾，全是婦女們一針一線縫製出來的藝術品。

海苔
在豐饒的有明海所栽培出來的海苔味道特別鮮美。尤其是「初摘海苔」的品質較佳，入口即化。

陶窯 蒲池窯
蒲池窯為江戶時期舊柳川藩的官窯，進入明治時期以後曾經一度荒廢，1987 年纔得以恢復。





嘿！出發吧！ 「遊河」水鄉船旅

「遊河」是柳川最特殊且具歷史性的遊河活動，乘坐「搖櫓船」慢慢環遊舊時護城河（江戸時代柳川城四周）。沿途可欣賞到櫻花、菖蒲花以及紅葉等四季風情，還有穿過窄窄的水門、聆聽船夫吟唱歌謠等等。隨著悠悠流水搖晃搖晃，讓人不覺忘卻時間的流逝。全長約70分鐘，不需事前預約即可搭船。如果事先預約的話，還能體驗在船上享用蒸籠鰻魚等鄉土料理的樂趣。

「川下り」とは、昔ながらの掘割（江戸時代の柳川城のまわり）を「どんこ舟」にゆられながら巡っていくという、柳川ならではの歴史ある舟遊びです。コース沿いは、桜や菖蒲、紅葉と四季折々に彩られ、狭い水門をくぐったり、船頭さんの歌に耳を傾けたり、そのゆったりとした水の流れに、思わず時間を忘れてしまうほど。コースは約70分、予約なしで乗船できます。また、事前の予約があれば、郷土料理の鰻の蒸籠蒸しなど舟の上で食事も楽しめます。



1 空中鳥瞰遊河風景 / 2 外國遊客也喜愛的遊河。 / 3 名為「並食」的味噌鰻魚遊河熱門景點之一。 / 4 冬季的電暖桌（日本自古流傳至今，在桌面鋪蓋棉被的取暖方式）船。

1 空から見た川下りの風景（『新柳川明証図会』撮影 橋本文夫） / 2 外國人の観光客にも人気の川下り。 / 3 「並食」と呼ばれる、川下り名所の味噌鰻。 / 4 冬のこたつ。



立花家は、江戸時代元和6年（1620）から明治4年（1871）まで、この地を治めた大名家です。「御花」の歴史は、元文3年（1738）、柳川藩五代藩主、立花貞俊が柳川城の南西隅にあたる、御花島と呼ばれていたこの地に別邸を築いたことに始まります。立花家史料館には、甲賀や日本の伝統美をたたえ遊び道具などの貴重な所蔵品が公開され、日本でも数少ない、大名文化を今に伝える場所として多くの人びとを訪れます。『松濤園』は、明治43年に十四代立花寛治伯爵によって築かれた庭園で、園内には約280本のクロマツ、庭石1500個、石灯籠11基があり、池底に大小の岩島を配して大海をあらわした優美な名園として、昭和53年に国の名勝に指定されています。



「御花」、「松濤園」 是欣賞、感受日本文化的場所

立花家乃是從江戸時代元和6年（1620）到明治4年（1871）間統治此地的大家。而「御花」（現為史料館）則是，元文3年（1738）年柳川藩五代藩主立花貞俊在位於柳川城西南方、稱為「御花島」的地方所興建的別墅。御花史料館公開展示武士盔甲和日本傳統玩具等珍貴收藏品，為現今日本國內少數珍藏大名文化的博物館，訪客絡繹不絕。「松濤園」係明治43年（1910年）第14代子孫立花寛治伯爵所建造的庭園建築。園區約有280株黑松、1500個造景石、14座燈籠在園地裡巧妙排列，大大小小的岩石象徵大海模樣的優美園景，昭和53年（1978年）被指定為國家名勝。

5 松濤園全景 / 6 立花家珍貴的收藏品（御花史料館） / 7 柳川第一代藩主立花宗茂肖像 / 8 明治43年（1910年），作為立花家迎賓館所建造的洋館 / 9 立花忠茂所穿的盔甲 / 10 展示了歷經立花家代代相傳400年的收藏品御花史料館

5 松濤園の全景 / 6 立花家の貴重な伝来品（立花家史料館） / 7 初代柳川藩主、立花宗茂肖像 / 8 明治43年（1910）に立花家の迎賓館として建てられた西洋館 / 9 立花忠茂着用の兜 / 10 400年にわたって連綿と受け継がれた伝来品が公開されている立花家史料館

春天，柳川的街道因女兒節吊飾祭而五彩繽紛

日本從以前就有在家中女娃誕生後第一年的「第一個女兒節」時，為祈求孩童能平安成長而擺飾女兒節人偶的習俗。在柳川，還會女兒節人偶的陳列祭周圍掛掛五彩繽紛的「女兒節吊飾」，為了讓來到柳川觀光的遊客也能欣賞這項風俗，開辦了「女兒節吊飾祭」參觀活動。這些女兒節吊飾，一個個充滿了為人父母祈願女兒擁有美麗、堅強以及自信的心情。每年2月11日至4月3日，柳川的街道因「女兒節吊飾」而五彩繽紛。

日本では、昔から女の子が生まれた最初のお祝い「初節句」に、子どもの無事な成長を願ってひな人形を飾る風習があります。柳川では、さらにそのひな壇のまわりに、色とりどりの「さげもん」を飾る慣わしがありますが、それを訪れた人びとも見て楽しんで、もろうというのが「さげもんめぐり」の始末です。女性としての美しさ、強さ、誇りなどを身に付けて欲しいという親心が、その飾りひとつひとつに込められています。毎年、2月11日～4月3日、まちは「さげもん」で彩られます。



來趟悠閒的 溫泉之旅吧

柳川擁有天然湧出的溫泉，泉質為碳酸氫鈉鹽泉，對神經痛、肌肉酸痛、關節炎、虛冷、消除疲勞均有功效。在柳川，除了「南風（HAENKAZE）」、「KANPO旅館柳川」可泡湯外，「柳川文人之湯」也有免費的「足湯」可泡腳。

柳川には天然温泉が湧出し、泉質は、ナトリウム-炭酸水素塩、塩化物泉で、神経痛、筋肉痛、疲労回復などに効果があります。



② 柳川旅遊問訊處

集柳川觀光相關情報於一處的「柳川旅遊問訊處」。其所在地「沖端」一帶，是過去柳川城的城下町（舊街區）。

http://www.yanagawa-net.com/
柳川市沖端町35番地
TEL (0944)74-0891
FAX (0944)72-9013

左 / 南風（HAENKAZE）
右 / 柳川旅遊問訊處
左 / 柳川溫泉 南風
右 / 柳川觀光案内所



武士宅邸 「舊戶島家住宅」

位於城西、鬼童町一隅，係過去作為柳川藩士隱居後的宅第所興建，具數寄屋（茶室）風格的日式茅屋頂建築，據傳是在寛政年間（1789～1800）築と伝えられています。裡面有一個引渡城河水池的名勝庭園，形成極富雅趣的空間。而建築物內部則處處可見江戸時代當時的流行風格，還有一扇雕刻著李白「酒酌」一詩的門扉等，處處流露出文人精緻的雅趣。在當地團體提供抹茶款待的活動期間，坐在先人坐著聊天過的墊子上品茶，格外有趣。

城內地区の西の端、鬼童町の一角に、旧柳川藩士の隠居後の住宅として建てられた数寄屋風の意匠を持つ茅葺屋根の建物で、寛政年間（1789～1800）築と伝えられています。掘割から水を引き入れた池を持つ国の名勝庭園とともに、趣のある空間を形成しています。内部には、江戸時代の流行が随所にとり入れられ、李白の漢詩「蜀南」が彫られた戸など、文人趣味の意匠が多くみられます。地元のグループが抹茶のもてなしをしている期間があり、先人たちが語り合った座敷でいただく一服のお茶は、格別なものがあります。



最為日本人喜愛的詩人北原白秋 柳川正是孕育詩歌創作的原點

北原白秋（1885～1942）是日本家喻戶曉的詩人，也是童謠作家、和歌詩人。其波瀾起伏的人生歲月裡，創作出「拘橘花」、「空等」等迄今仍不斷為人吟唱的童謠，留下了不少超越世代、膾炙人心的名作；此外，他也是日本最早翻譯「鵝媽媽童謠」介紹給日本國人的詩人。白秋在遺稿中曾提到「柳川，孕育我詩作的原點」。因文化保護運動，他的老家得以奇蹟似地保留下來，而在紀念館有展示許多親筆書寫的原稿以及私人物品等珍貴的收藏品，成為許多人前來參訪的場所。

北原白秋（1885～1942）は日本人であれば、誰もが知る詩人であり、童謡作家であり、歌人です。波乱に富んだ生涯でありながら、「からたちの花」、「待ちぼうけ」など、今でも歌い継がれている童謡など、世代を超えて愛される名作を数多く残し、日本で初めて「マザー・グース」を翻訳して紹介したことも知られています。遺稿の中で、「この私の詩の母體柳川」と記したほど白秋の表現にとって故郷柳川の存在は大きなものでした。今は、保存運動によって奇跡的に守られた生家が残され、直筆の原稿や所持品など貴重な品が数多く展示された記念館とともに、多くの人びとが訪れる場所となっています。



左 / 舊戶島家住宅
上 / 北原白秋紀念館
左 / 田戶島家住宅
上 / 北原白秋紀念館